Contents

はじめに …… 2

事業概要 …… 3

講座レポート① …… 6

視察レポート …… 13

講座レポート② …… 15

修了式レポート …… 17

講師プロフィール …… 19

広報実績 …… 20

実践報告 …… 21

修了生紹介 …… 23

今後に向けて …… 25

私たちがRinに込めた思い…

「凛とした美しさや優しさ隣り合う人たちを思う力」「困難な場面に臨む姿勢」「多様な立場の人たちの輪のようなつながり」など、災害に負けない互いに支えあう力を持った女性たちが数多く誕生し、つながっていくことを目指したプロジェクト。また鈴の音には邪気を祓う力があるともいわれています。メンバーの存在が助けを求める人の暗い闇をはらう光となるように、そんな思いを込めて名付けたものです。



はじめに

「熊本の女性はつながっていなかったね…」

2016年の熊本地震の支援の現場で、高齢の女性から掛けられたその言葉が、私は今も忘れられずにいます。避難所に最後まで残り、自分の持ち物はキャリーバック一つ。「こんな時は必ず、私のような弱者にしわ寄せが来るのよね」とも…。

一瞬のうちに大切な命も美しい故郷の風景も奪い去っていった熊本地震。私たちにとってあの恐怖や絶望感は二度と思い出したくはない、つらい記憶です。発災直後から無我夢中で走り回った支援活動の中で、私は「男女共同参画（ジェンダー）視点の有無が、被害状況に大きく影響するということを目の当たりにしました。そして前例のない災害を前にした自分たちは全くの無力であることも思い知らされました。そんな時に私たちを支えてくれたのは、全国の男女共同参画センターでジェンダー視点での防災の推進に取り組む、志を同じくする仲間たちの存在でした。物質的な支えはもちろんのこと、常に気遣い助言してもらう中で、そのつながりの心強さと必要性、さらにはその可能性の大きさも実感することができました。

「今度こそ、志を同じくする仲間のネットワークを創ろう！」 そんな私たちの思いをつないだ今回の休眠預金事業は『県内にジェンダー視点での防災を伝えられる50人の女性リーダーを誕生させ、そのネットワークを構築して備える』という目標を掲げスタートしました。3年の事業で最終的にはいくつかの課題は残したものの、今日も女性防災リーダーたちが県内外の至る所で防災啓発活動に取り組んでいます。私たちはこのつながりをもとに、あと50人、さらには100人と仲間を増やしながら、これからも誰もが互いに「助けて」と言い合える温かい社会の実現を目指してまいります。

本プロジェクトを進めるにあたりご支援いただきました益城町町長　西村博則氏をはじめ、この事業に取り組む機会をくださったJANPIAと地域創造基金さなぶりの皆さま、講師の皆さまや関係各位の皆様方に心より感謝申し上げます。

有限会社ミューズプランニング
代表取締役　藤井　宥貴子